

県広報

1991
No.269

6

とやま

特集/ 環日本海交流を 考える

県庁探訪/
ふるさとみである記/
商工企画課
福岡町



今年から
5月12日は「看護の日」
になりました。

(そこで中央病院の看護婦さん、関口宏子さんをスナップ・ショット)

ひと
アズ
とやま

茶寿

書家（上海復旦大学顧問） 青柳志郎

中国ではお茶を飲む習慣は、いまから約三千年前の殷周時代から起こり、大衆に広く親しまれてきているようだ。米客があればまずお茶をすすめるし、食前食後に欠かさない。毎朝目覚めに一杯飲む習慣の人もある。これらは全く日本と一緒といえる。中国のことを「茶香之國」というくらいで、日本への伝来は唐代のことという。日本で茶道として盛んになっていく所以は、識者のよく知るところである。お茶は、大きく緑茶、紅茶、茉莉（ジャスミン）茶、烏龍（ウーロン）茶に分けら

はなんべんも注いでいっばいにする。日本の緑茶や番茶のように、いつまでおいても出さずることがない。ジャスミン茶は、一説によると脂肪を分解するので肉食によく、半発酵茶なので、おなかにもいいとされている。中国に肥満児をみかけないのも、ジャスミン茶のせいかなと思ったりもしてみる。

ところで日本でもそうだが、還暦（六十歳）古稀（七十歳）喜寿（七十七歳）傘寿（八十歳）米寿（八十八歳）卒寿（九十歳）白寿（九十九歳）百寿（百歳）ときて最後に茶寿とな

れるが、中国の人たちにとくに好まれるのは、香り高いジャスミン茶のようだ。ジャスミンは、気候温暖の福建省・広東省などで栽培され、初夏のころから小さい白い花をつけはじめ、夜に芳香を放つのだそうである。この香りを、お茶の葉に移す方法が発見されたのは、宋代（九六〇―一二七九年）らしい。

中国を旅行した人ならご存知だろうが、列車内でもホテルでも、蓋つきの大きな湯呑みを出される。その中にジャスミン茶の葉を入れ、湯を注いで蓋をしておき、好きなときに、蓋で葉を除けるようにして飲むのである。湯

る。つまり茶の字を分解すると草冠十と十のあと八十八で百八歳を茶寿というわけ。そういえば除夜の鐘の数が百八、人間の煩惱とされる数と一致する。中国人らしい発想といえないだろうか。お茶を楽しむことは、煩惱を流し慰やすことでもあるのである。

香り高い夏の花に、茉莉茶のほか、夜来香、晚香玉がある。夜来香は中国の古い歌で有名だが、実物は、中国をかなり旅したつもりだが見かけたことがない。どうも夜来香は木であり、晚香玉は草であろうという説もある。



万葉のころを伝えたい

万葉版画家 佐竹 清さん

「福光へ疎開していた棟方志功に版画を習ってほめてもらい、その上、直筆の賞状を手渡してもらった時は、本当に嬉しかったですね。越中万葉を題材にした木版画で知られる万葉版画家、佐竹清さん。その佐竹さんが自宅の敷地に古い土蔵を移築し、自作を展示する『万葉版画館』を造りました。

小・中学校で教員をしていた佐竹さんは四十年前、版画家の棟方志功に出会い、木版画の魅力にとりつかれ、自らも彫り始めました。そして教員生活を続けるかたわら、各種展覧会に出展するなど、版画を彫り続けてきましたが、八年前、版画に専念するために、伏木小学校の教頭で、長年の教員生活にピリオドを打ちました。

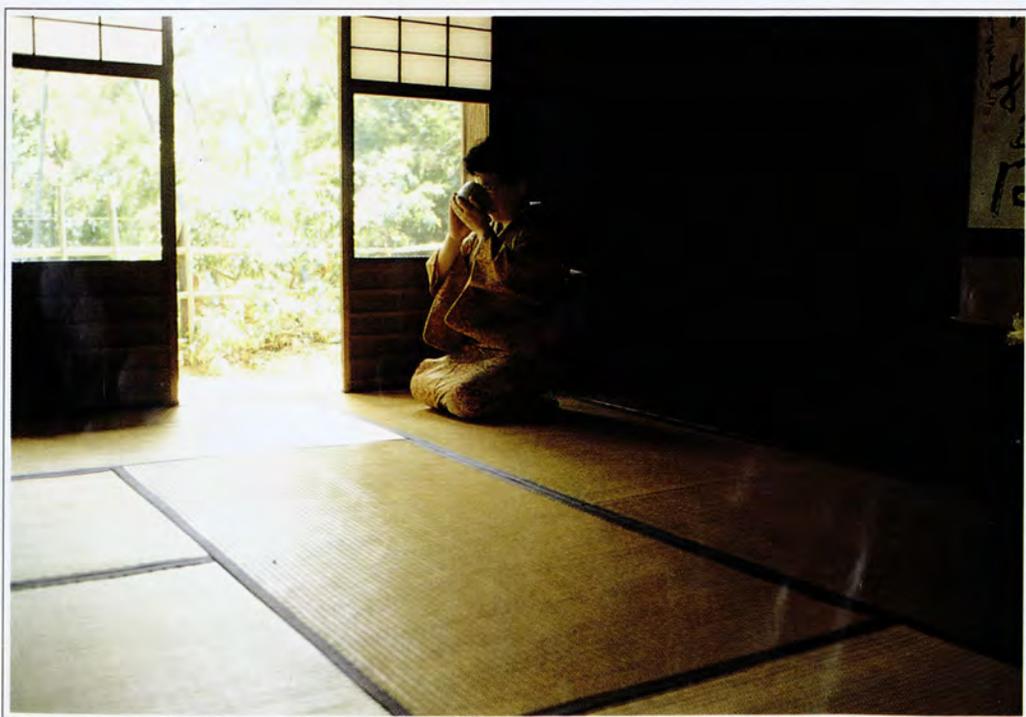
「教員生活のうち八年間を、大伴家持ゆかりの地伏木で過ごしました。また、万葉歴史館の現名菅館長犬養孝さんの講演を聴いて大変感動しました。そうしたこともあって家持が歌に詠んだ我ふるさと、万葉の地を自分の手で彫りたいと思いました。県民からの投票によって選ばれた高岡八景の制作をしたり、毎年の高岡万葉まつりには、万葉版画展を開いたり大変精力的な活動を続ける佐竹さん。版画を語る時の表情が実に楽しそうです。

「何ともいえぬ、白と黒の響き合いが好きです。刀の切れ味、鋭い線の味は筆では表現できません。現在多色刷りの版画が展覧会などでは主流を占めていますが、頑固なまでに白黒にこだわる佐竹さんの作品は、逆に素朴で、新鮮に感じ、見る者の心をとらえます。

「現代は文化を求める時代ですが、この万葉の雰囲気漂う館で、お茶会や琴の演奏会を開いて多くの人に万葉文化を味わってもらいたい。現在一週間に二回、版画教室を開催しているという佐竹さん。これからも白と黒の織りなす微妙なハーモニーで、多数の人々を万葉の世界へと誘います。



▲万葉版画



富山市民俗民芸村円山庵にて



空の新時代幕開け

富山—名古屋便就航

富山と名古屋間を結ぶコミュニーター航空の運航が四月二十三日開始され、コミュニーター機としては最大の五十六人乗り「フォッカー50」が、朝夕の一日二往復することになりました。

就航を記念して富山空港で行われた式典では、中沖知事ら関係者がテープカットをして富山からの第一便の出発を祝いました。

また、空港ターミナルビル二階では、就航記念の愛知県特産品フェアが、四月二十日から二十三日まで開催されました。

今回の航空便就航により、富山と名古屋が55分で結ばれ、高速交通網の整備が一層進みました。また、富山—名古屋間の就航に併せ、四月十一日は名古屋—米子間、十二月十三日は名古屋—高松間がコミュニーター路線で結ばれるとともに、名古屋空港接続の国内・国際線への乗り継ぎが容易になることから、今後ビジネス・観光面で、中京圏との交流が、一層活発になるものと期待されています。



“TAPエクスプレス”富山へ到着

TAP 90'S 北陸キャンペーンスタート



◀常願太鼓による歓迎セレモニー



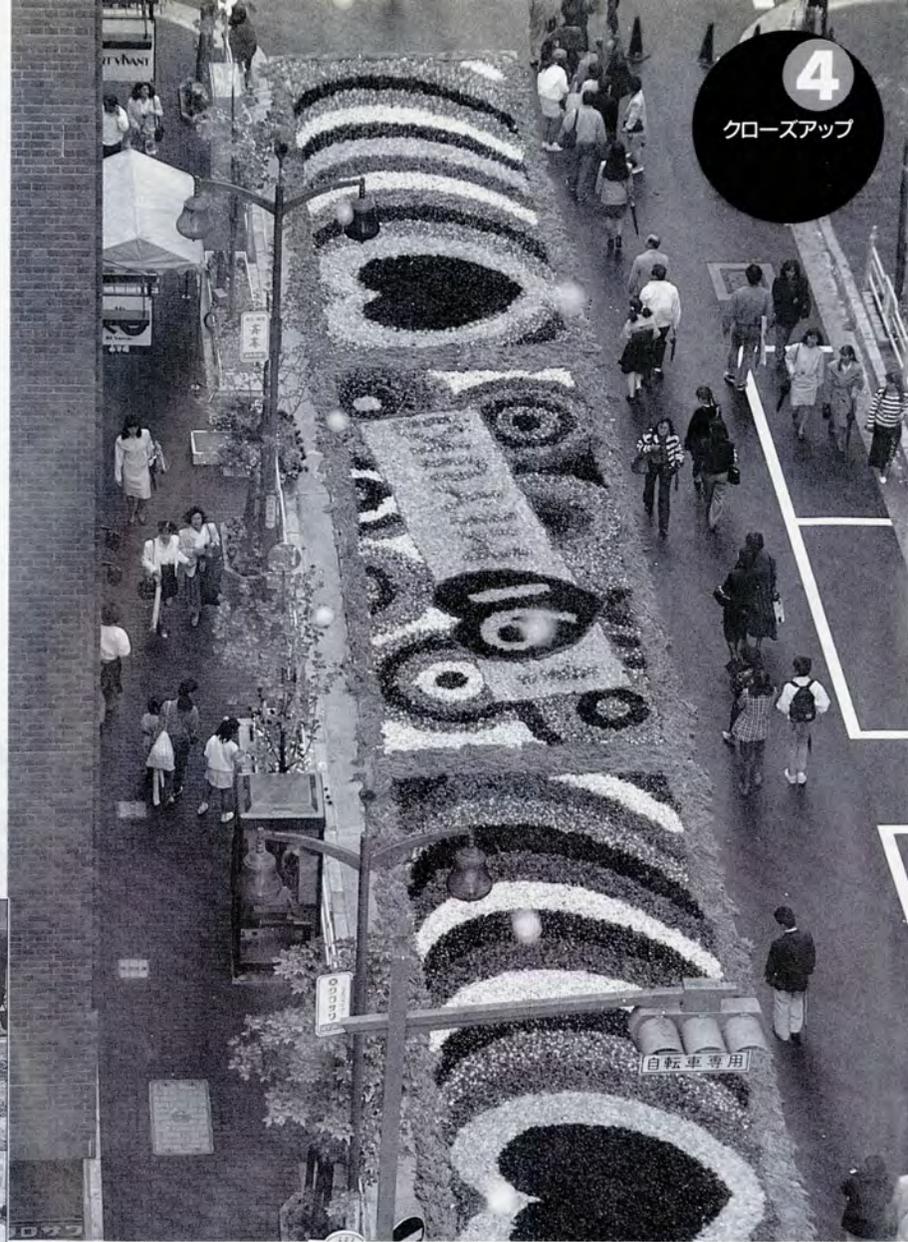
富山・石川・福井の北陸三県共同により全国にむけて観光PRを行う「TAP 90'S 北陸キャンペーン」が、四月二十日から七月三十一日にわたり展開されています。

このキャンペーンは九十年代観光振興行動計画（TAP 90'S）に基づき、北陸三県の観光関係者が一体となって北陸のイメージアップを図り、北陸の持つ魅力売り出そうとするものです。

キャンペーンスタートの二十日、JR富山駅のコンコースでは、特急「TAPエクスプレス」の到着にあわせて、富山市の常願太鼓保存会による太鼓の実演などの歓迎セレモニーが行われ、乗客の中からフルムーン旅行で富山を訪れた神戸市の夫妻に花束が贈られました。また、ミス富山やミスしんきろうが、特典情報を満載したパンフレットを観光客に笑顔で手渡していました。

TAPエクスプレスは、キャンペーン期間中の金・土・日曜日とゴールデンウィークの延べ三十七日間、富山—姫路間を一日一往復運行されます。

TOYAMAチュウリップアベニュー'91
 銀座を彩る
 巨大なフラワーアート



4
 クローズアップ



県花チュウリップを使って県のPRと来年七月に開催されるジャパンエキスポ富山'92をPRしようと、TOYAMAチュウリップアベニュー'91が、四月二十八日から二十九日にかけて、東京・銀座でくりひろげられました。銀座みゆき通りにチュウリップの花びらを敷きつめる「チュウリップカーペット」は今年で五回目となりましたが、今回はさらに規模を広げ、銀座一丁目から八丁目にかけてのメインストリートに県から運びこまれたチュウリップやムスカリの花約十万本を使った花壇が設置されました。

初日は正午からオープニングセレモニーが行われ、宗田副知事や成瀬農業水産部長らが「チュウリップ王国とやま」とチュウリップで描かれたディスプレイの序幕を行いました。またこの日はジェット君のぬいぐるみや特産の女王などのキャンペーンガールらがパンフレットを配り、ジャパンエキスポ富山のPRを行いました。

好天に恵まれたこともあり、二日間とも銀座は大勢の人でにぎわい、突然現れた色鮮やかなチュウリップのアートに、人々は立ち止まって熱心に見入っていました。

3
 クローズアップ



▲工場見学

▲IOX・アロー・ザスキー場視察

▲小坂第一協業生産組合前にて

▲小坂第一協業生産組合

ひざを交えてふれあい対話

知事のまちなわり〈福光町〉



▲本町商店街、店主とのふれあい対話



▲福光中にて

今年度はじめての「知事のまちなわり」が四月二十六日、福光町で行われました。

桃野町長の案内で午前中は、電子部品メーカーやプラスチック製品メーカーの工場見学のほか、東海北陸自動車道の福光IC工事現場、医王山山ろくに開発が進められている総合レクリエーション施設の中心となるIOXアローザスキー場などを視察。お昼には、広瀬館林業者集会センターで、地元婦人部の手作りの山菜料理を賞味しながら町議会議員らと懇談しました。

午後からは、集落営農に取り組んでいる小坂第一協業生産組合を訪れ、この日最初のふれあい対話に臨みました。兼業農家の難しさ、農作業の工夫などの話を聴くとともに、今後の農業政策について活発に話し合いがなされました。また、近代化事業を進めている本町商店街の店主とのふれあい対話では、事業の早期完成に向けての県の支援策などについて活発な意見交換が行われました。

この他、福光唯一の酒蔵「成政酒造」、棟方志功ゆかりの光徳寺などを訪れ、福光中学校では、福光の子供達に贈る歌「瞳に映してごらん」を聴き、生徒たちの部活動を見学して生徒たちとのふれあいを深めました。

環日本海交流を考へる

「隣人」の真の友好を築く



「ズドラー・ストヴィシエ」。スバスイーバ。どんな意味が分かりますか。分かるとすればあなたはかなりのソ連通です。これはロシア語で「こんにちは」が「ありがとう」という意味です。四月にゴルバチョフ大統領が来日して、日本中は連日、大変なソ連フィーバーでした。そしてソ連に対する関心もにわかにも高まってきました。しかし、私たちは前述のロシア語のように意外なくらいソ連のことを知りません。地図で見ると一目瞭然のように、日本にとってソ連極東部は日本海をはさんですぐ向かいです。ソ連に限らず、対岸諸国の中国、韓国、北朝鮮は、まさしく「隣人」なのです。距離的には遠い欧米との幅広い分野での活発な交流に比べ、隣人であるこれら四カ国との交流は意外なほど少ないのが現状ではないでしょうか。

日本海側の中央に位置する富山県は、古くからアジア大陸との交易、交流の歴史を持ち、現在では、中国、ソ連など対岸諸国との貿易をはじめとする環日本海交流の中心地域のひとつとなっています。

こうした歴史と実績をもとに、今後の環日本海交流を計画的に進め、隣人との真の友好をめざすうえでの指針となる「富山県環日本海交流拠点構想」の策定が現在、進められています。この構想案の概要を紹介するとともに、環日本海交流に関係の深い三人の方の事例を挙げて、これからの環日本海交流について考えてみましょう。

1 環日本海交流の必要性

国際立県を目指す富山県は、幅広く、グローバルな交流を進めています。とりわけ、対岸諸国とは位置的に近接しており、「隣人」の一人としてのつき合いを深めることが自然な方向であると考えられます。

また富山県はソ連や韓国との海運コンテナ航路など、港湾を通じた経済的なつながりが強く、環日本海交流を促進するための条件が整っています。

- ① 対岸諸国への貢献
 - ② 対岸諸国との交流を通じた地域の活性化
 - ③ 「環日本海文化」ともいえる地域個性の確立
 - ④ 国際感覚豊かな人材の育成 など
- 多くの意義を持つものであり、富山県における国際交流の中心的分野として積極的に推進していく必要があります。

この構想ではこれまでの交流実績、諸条件等から、次の四カ国・地域を中心とした範囲を、交流の対象としています。

- ・ 日本海沿岸諸県
- ・ ソ連（シベリア極東部）
- ・ 中国（東北地方）
- ・ 韓国
- ・ 北朝鮮



2 環日本海交流拠点構築の基本的視点

この構想の拠点とは、単に空港・港湾・物流施設などの大規模施設のみならず、例えば姉妹都市交流における調整・連携機能も重要な拠点としてとらえています。

- ① 長期を展望した拠点の形成
対岸諸国との現状からすれば、幅広い分野での本格的な交流には長期的展望をもって臨む必要があります。
- ② バランスのとれた国際化
産業、技術といった面だけでなく、学術・教育、文化などの分野も重視したバランスのとれた国際化を進めます。
- ③ 地域の活性化へのつながり
交流活動を進める際に人、物、資本、情報、技術など地域の資源を生かし、それを組み合わせることが重要です。

3 拠点構築のための基本的目標と施策内容

四つの基本的な目標

- 将来の環日本海交流を担う人材育成拠点
- 異なる文化とのふれあいによる新たな環日本海文化の創出拠点
- 環日本海地域の資源、技術、ニーズを結合する学術研究拠点
- 富山を扇の要とする日本海物流・情報ネットワーク拠点

これらの目標を達成するとともに、拠点づくりのための基盤や体制整備を行う具体的な事業については、次のように考えています。

1 将来の環日本海交流を担う人材育成拠点

対岸諸国との将来の本格的な交流の基礎となる人的育成を図ることが重要です。

富山県では、既に中国、韓国から研修生を受け入れるなど各種の交流施策が行われていますが、日本海沿岸随一の産業・技術集積、教育県としてのノウハウの蓄積を生かし、対岸諸国の人材を、研修・留学生として受け入れ、人的な交流を着実に強化していきます。

- ① 人材育成
 - ・ 大学等における対岸諸国の言語学習の推進
 - ・ 国際理解教育の推進
 - ・ 青少年の対岸諸国への定期派遣等
- ② 対岸諸国の人材育成への協力
 - ・ 留学生等の研修、支援を行う研修・留学プラザ（仮称）の設置
 - ・ 退職者等による海外技術指導等の国際協力の推進
- ③ 環日本海の大学交流の促進
 - ・ カリキュラム、単位等の相互認定
 - ・ 通信衛星等を利用した共通講座の開設等





「十七歳の時、ロシア語を話せる人に、富山港に停泊していたソ連船に連れて行ってもらいました。ロシア人は人あたりがやわらかくて、大らかで気どらない、気さくな感じの人が多く、始め不安でドキドキしていた私も、溶け込むのにあまり時間はかからなかったですね。それは十五の共和国に二百以上の民族がいるといわれているソ連のお国柄上、わけへだてなく人を受け入れるという構えない性格のせいであつたかもしれません。これを機に、十五分ほど自転車をこいで、毎日のようにソ連船に出入りをしていったと言う中島和子さん。そして理解をもっと深めたいという気持ちから、松井良治さんのロシア語会話講座に通い始めたこのことです。」

「ソ連船へ行って交流を深めるだけではもの足りなくなり、二十二歳の時横浜から船でソ連へ旅立ちました。船中で二泊してナホトカへ着いた時は本当に感激しました。中島さんはこの後七回ソ連を訪れています。そのうちの二回は、青年の船の通訳として随行したものです。」



日ソ親善協会富山県支部会員 中島和子さん

心のふれあいを大切に

「昭和六十一年の暮から六十二年の初めにかけて娘の美里（ロシア語でミール）と言うのは平和の意味」とハバロフスクへ行つた時のことです。バスの中から外の景色を見ようとしていた娘のために、乗客のロシア人が素手で凍りついた窓をふいて見せてくれ、娘は大変感動していました。ソ連で知り合った仲のいい友達とずっと文通をして交流を続けている中島さん。ソ連のこと、ロシア人の事を話す時の表情には、何とも言えぬ優しさが漂っています。」

心臓病で医科薬科大へ運ばれたソ連船の船長さんを毎日ように見舞い、心の支えとなつてあげたり、富山港へ停泊しているソ連船の船員を家へ招いて食事を共にしたりと、心の通う草の根レベルの交流を続けている中島さん。環日本海交流は、こんな心の触れ合いから前進するのではないのでしょうか。日ソ親善の促進のためにも、中島さんの今後の活躍が大いに期待されます。

日本海を結ぶ友好の掛け橋

県ソ連極東訪問団 ソ連沿海地方訪問



環日本海交流の一層の促進を目指して、富山県ソ連極東訪問団(名誉団長・中沖知事)の一行が、五月十四日から十八日までの五日間、ソ連・沿海地方を訪れました。一行は、商業工業、農業水産、教育文化、生産加工の四コースに分かれ、沿海地方商工会議所や極東漁業公団、極東総合大学、ダリソ(極東対外経済協会)などを視察しました。

また、中沖知事ははじめとする公式訪問団は、沿海地方政府やウラジオストク市役所などを表敬し、友好親善を深めました。この中で、中沖知事とクズネツォフ沿海地方知事は、一年以内に富山県と沿海地方が友好提携を締結することと合意。沿海地方政府庁舎で協定書に調印し、併せて今年富山県沿海地方が行うスポーツ、文化、経済交流など十項目を盛り込んだ議定書を交わしました。

同地方が日本の自治体と友好提携するのは初めてであり、国際立県を掲げ環日本海交流を推進する富山県にとって、ソ連・極東地域に友好拠点の足場を築いた意義は極めて大きく、今後一層友好のきずなが深まるものと期待されます。

2 異なる文化とのふれあいによる 新たな環日本海文化の創出拠点

対岸諸国との文化交流は、次代を切り開く新しい発想、価値観、ライフスタイルを生み出す可能性があります。

新たな生活文化の情報発信は、人、情報を呼び寄せることにつながり、ひいては、富山県の活性化につながります。

富山県は、演劇、葉など新旧の文化をもっており、こうした分野を基点として幅広い交流を行うことにより、新しい文化の創出拠点を形成していくことが可能であり、これが富山県の文化の発展にもつながります。

① 日本海ミュージアム構想の推進

● 海洋博物館、海洋研修センター等の個性あふれるマリントの創出

② 環日本海交流推進協会(仮称)の設立

● 国際会議、シンポジウム等各種文化交流の企画、調整、支援

③ 文化・スポーツ交流の推進

● 環日本海サミット等の国際会議、美術展、芸術祭、博覧会、スポーツ大会等の開催

3 環日本地域の資源、技術、二一スを 結合する学術研究拠点

対岸諸国と富山県の双方にある技術、資源二一スを適切に組み合わせることにより、今まで解決できなかった課題が解決されたり、新しいビジネスが生まれる可能性があります。

現在、県内の学術研究機関と対岸諸国の一部の学術研究機関との間で共同研究を行っている例もありますが、こうした動きを加速させ、ま

た、複数国間産学官交流、異業種交流へと拡大することにより、環日本海全体の発展につなげていきます。

① 環日本海総合研究機構の設立

● 環日本海にかかる学術研究、学術・技術交流におけるテーマの発掘、調整、助成等

② 国際伝統医学センター等の設立

● 国際伝統医学センターの設立

③ 海洋科学研究所等の専門分野の研究機関の設立促進

● 既存の研究機関等の強化

● 既存の大学、公的研究機関における環日本海にかかる研究機能の拡充強化

4 富山を属の要とする 日本海物流・情報ネットワーク拠点

富山県は既に、対岸諸国、とりわけ、ソ連との物流拠点としての機能を担っています。

これは、県内企業等の積極的なポートセールスによって獲得した地位です。こうしたノウハウの蓄積をさらに高め、対岸諸国との物流・情報拠点としての機能強化を推進します。

① 環日本海投資情報センター(仮称)の設立

● 対岸諸国との貿易、投資を促進するための情報提供、コンサルテーション機能の充実

② 環日本海メッセの設置

● トレードフェア、常設展示、産業技術ミュージアム等によって構成

③ 海外駐在員・連絡事務所の設置

● 対岸諸国の経済の中心都市または空港、港湾、都市に設置

5 環日本海交流拠点づくりの ための基盤整備等

対岸諸国との交流を円滑に行うために必要な基盤整備や、環日本海交流ネットワークの形成を促進します。

① 国際交通網の整備

● 対岸諸国の主要空港、主要港湾との定期便、定期航路の開設の促進

② ダイヤモンド・リング構想

● ソ連、中国、韓国、北朝鮮、日本等の諸都市との相互友好提携により、経済、文化などの多面的な交流を行う、環日本海地域の交流ネットワークの形成の提唱とその推進

③ 友好提携の促進

● 対岸諸国の地方自治体、学校、民間団体等との友好提携や友好港湾、空港の促進

④ 情報空間の構築

● 特色ある情報の集積を高め、環日本海地域に貢献できる、環日本海情報ネットワークの構築促進



ウラジオストクへの友好の架け橋に

富山ウラジオストク会副会長

柴秀一さん

「物的交流だけでなく、人的交流が大切だと思います。文化やスポーツ交流を通じ、初めて親密で友好的な関係ができるのではないのでしょうか。ウラジオストク市及び沿海地方と経済、文化及びスポーツ等を通じて相互の交流と親睦を図ることを目的に、平成元年八月に設立された富山ウラジオストク会。その副会長として現在活躍している柴秀一さんは、自ら経営する木材会社において、技術員をハバロフスクへ派遣し技術協力をしたり、逆に向こうから来る技術員を受け入れ研修を行ったりと、ソ連との人的交流に力を注いでいます。それだけにソ連について語る表情は真剣そのものです。

「昭和二十九年に初めてナホトカへ行った時、土地を広く、せいたくに使っているという印象を受けました。そして住宅産業が一番大きい産業として発達しているのを見て、大きく発展して行くという強い意欲を感じました。また、閉ざされた国というイメージを持っていただけに、そこに住む人々の顔が明るかったのは意外でした。十回以上ソ連へ行っている柴さんにとっても、初めてのソ連訪問は大変印象的だったとのことでした。

「早急な交流の進め方は禁物です。日本海沿岸の各県が競争をするのではなく、十分に話し合うことによって、その地域に適した特色のある交流をしていく必要があると思います。また、ウラジオストクは西欧的な建物が多く、風光明媚な落ち着いた街です。そして貿易港、漁港、軍港等すべての機能を兼ね備えた極東一の港を持っています。富山からは非常に遠いイメージがあります。このイメージを変えるためには客船の相互乗り入れを行ったり、定期航路を設けたりして行く必要があります。今後の交流のあり方について具体的な提言を行う柴さん。話はつきません。

「ロシア人は思っていたよりも人なつっこくて好感が持てます。今後は、国家体制の違いを乗り越えて、人材交流を活発にし、お互いの理解を深めていかなければなりません。そういった意味で、今回の富山県ソ連極東訪問団のウラジオストク市訪問が、友好親善の意義ある出発点になることを願っています。自らも訪問団の一員として訪問した柴さん。今後もソ連極東地域と富山県の友好の架け橋としての活躍が期待されます。



言葉で広げよう交流の輪

ロシア語研究所長 松井良治さん

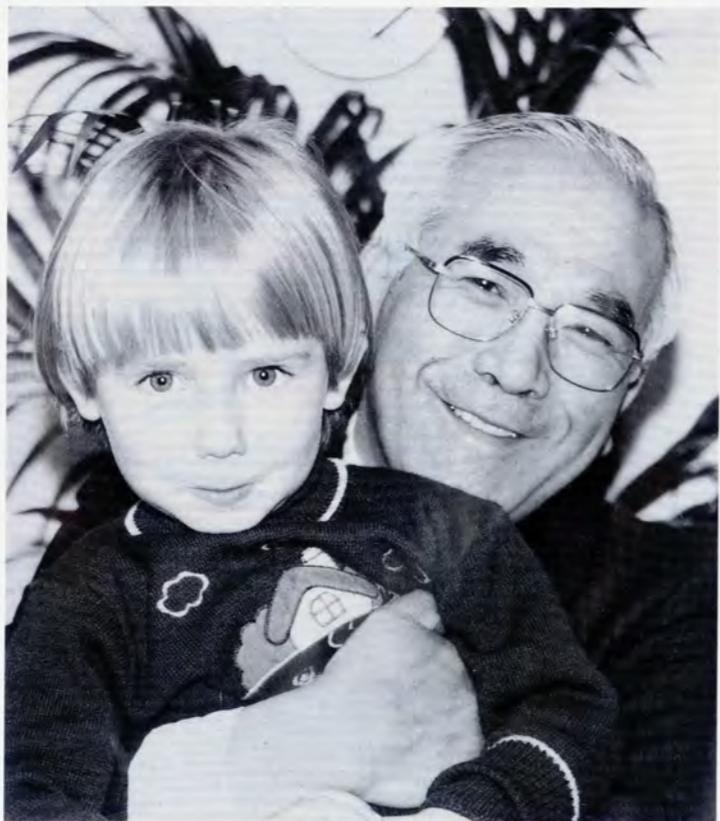
「日ソ関係の改善に伴い、今後ますますソ連との交流が活発になってきます。『こんにちは』『さようなら』『ありがとう』などの簡単な日常会話がロシア語でいえることによつて交流の輪はどんどん広がっていきます。ぜひ、多くの人にロシア語を学んでもらい、そして、正しくソ連を理解してもらいたいですね。私の語学講座がそのお役に立つのならとても嬉しいです。」現在、富山と新湊の両市でロシア語会話講座を開講している日本海電測ロシア語研究所長の松井良治さんは、これからのロシア語の必要性を強調します。

「金沢大学から富山へUターンして商売をしている時、街を歩いていたロシア人に会いました。そして、そのロシア人の乗っていたソ連船へ招かれました。それまではロシア人を恐いと思っていたので、乗船していた船員たちがとても大らかで、人なつっこいのにびっくりしました。もともと『イワンのバカ』などロシア文学やロシア民謡に関心のあった松井さんは、これを機に大のロシアファンとなり、よりソ連を理解したいという気持ちから、ロシア語を本格的に勉強し始めました。ただ、当時は現在のようにロシア語を習う所

がなかったため、ロシア語を話すことのできる人に個人レッスンを受けたら、東京の日ソ学院へ行くなどして、勉強を続けたそうです。そして、昭和三十一年に富山ロシア語学院を設立し、昭和四十二年にはモスクワ大学へ留学。ロシア語教授法などを学んで現在ロシア語における第一人者として活躍しています。

「最近、ゴルバチョフ大統領の訪日などで、ソ連に対する関心が高まっています。その影響で私のロシア語会話講座も定員を大きくオーバーする盛況ぶりです。現在、新湊で五、六十名、富山で二十四、五名の受講者があり、年令は中学生から七十歳、職業も家庭の主婦から、学生、木材会社や旅行会社の社員、公務員、看護婦など千差万別で、皆さん大変熱心に取り組んでいるとのことでした。

「現在、日本海対岸向けの顔が大きくなりつつあります。そして、その顔が大きくなるにつれて、目、耳、口も大きくしなければなりません。目は交流です。耳は情報、口は言葉です。交流が深まれば、定期的で詳しい情報やコミュニケーションの手段としての会話がさらに必要性を増してきます。特に



言葉は避けて通れない重要な問題です。私も昭和三十年からロシア語教育をやっています。語学教育というのは、地味で、時間のかかる割の合わない仕事です。そういった意味で、公の機関や第三セクターが主体となって、早急にロシア語教育を定期的継続的に実施すればよいと思います。環日本海交流に熱い期待を寄せる松井さん。語学教育を通して、将来の環日本海交流を担う人材の育成に余念がありません。言葉による交流の輪が今、確実に広がっています。





細工蒲鉾

PEW UP TOYAMA

あざやかに彩られ

じっと待つ

若い二人の新しい出発に

花添えられる日を

撮影 / 赤羽仁論



富山県は草木を葉に変え、水を電力に変え湿田を工業用地に変え、日本海地域で最大の工業立県への道を行ってきました。蓄積された多くの人材、技術、資本、産業基盤などの資源は、未知への限りない可能性を秘めています。富山県は今、その持てる力を発揮し、21世紀に向けて、大きな跳躍を試みようとしています。

商工企画課は、「活力ある産業づくり」をリードし、富山県のさらなる発展を目指しています。

目ざほす。」

三浦博美(ミス高岡)

今回は、商工企画課におじゃましました。この課は、機構改革によって今年四月に、商工振興課から商工企画課へ名称が変更されたそうです。私にとって、あまりなじみのない課なので、どのような仕事をしているのか全く知りませんでした。

ここでは、激しい時代の変化に的確に対応できる産業構造の実現や豊かな県民生活の安定的確保といった課題に取り組み、富山の将来を考えた事業を推進しているとのことですが、実際にどのような事業を行っているのでしょうか。

英知を集めた、産業基盤の整備

皆さんも一度は「富山テクノポリス」計画というのを耳にしたことがあると思います。この計画は、富山県が創造性と文化に満ちた質の高いアメニティ社会を形成し、世界に開かれた技術集積都市となることを目指すものです。具体的には、メカトロニクス、新素材、バイオなどの先端技術産業の発展を図るため、工業技術センターなどの学術研究機関の新設、拡充、八尾をはじめとする多くの工業団地の整備や住宅地の再開発・整備を進めるとともに、民間企業の技術の技術開発の支援なども行っているそうです。

また、ここで進められている大きな計画として「頭脳立地計画」があります。この計画では、サービス業、デザイン業、自然科学研

究所などの「頭脳集約型」の産業を育て、ハイテク（高度技術）とハイタッチ（人間の感性）の調和のとれた「付加価値の高い産業」づくりを推進しています。具体的事業としては「富山県総合情報センター（通称 富山イノベーションセンター）」、「富山イノベーションパーク」などの建設を推進しているそうです。



▲三大都市で「TOYAMA 就職ガイダンス」を開催

その他、若い人材の確保のため、東京・大阪・名古屋で就職ガイダンスを開くなど積極的な活動を行っているそうです。

技術立県を目指して

商工企画課の舟根参事のお話を聞いた後、私は県の研究機関である工業技術センターを訪ねました。はじめに訪問した、機械電子研究所（富



▲工業技術センター



▲機械電子研究所にて

山市)では、産業機器の自動化、工程のシステム化推進のため、エレクトロ技術、メカトロニクス技術及びそれらに必要な素材の開発などを主に行っています。

「世界への跳躍」

レポーター:

特に「センサ(感知装置)や「機能的複合材料(異質の材料を組み合わせて新しい機能を持つ材料)では多くの特許を出願されているそうです。また、他の企業との共同研究も活発に行われているとのことでした。



▲中央研究所にて、工業技術センター山本所長の説明を聞く

研究所(高岡市)では、新技術開発、新製品開発並びに地場産業技術の研究指導を行っています。新しい技術の開発の例として、水にふれると壊れやすい貝化石の特徴を利用し、これを鋳型として使い、精密な鋳造品を作る技術の説明を受けました。この技術により高岡の銅製品は、安い値段で品質のよいものが生産できるようになるのだそうです。



最後に訪れた、富山県産業創造センター(通称 高岡テクノドーム)は、「頭脳立地計画」の一翼を担う機関です。ここでは各種イベントが開かれるほか、研究開発型企業(インキュベーター)の育成・支援のためインキュベ



▲高岡テクノドーム・インキュベーター室にて

取材中は、難しい専門用語が多くとび出しよく理解できない部分もありました。しかし、舟根参事がお話しの際最後に「地味な仕事かもしれないですが、やりがいのある仕事です」と話されました。私も、富山の産業をリードしている人たちの仕事を少しは実感でき、よい勉強になりました。これからの富山を「引っぱって行く」商工企画課の皆さんの活躍に大いに期待しています。

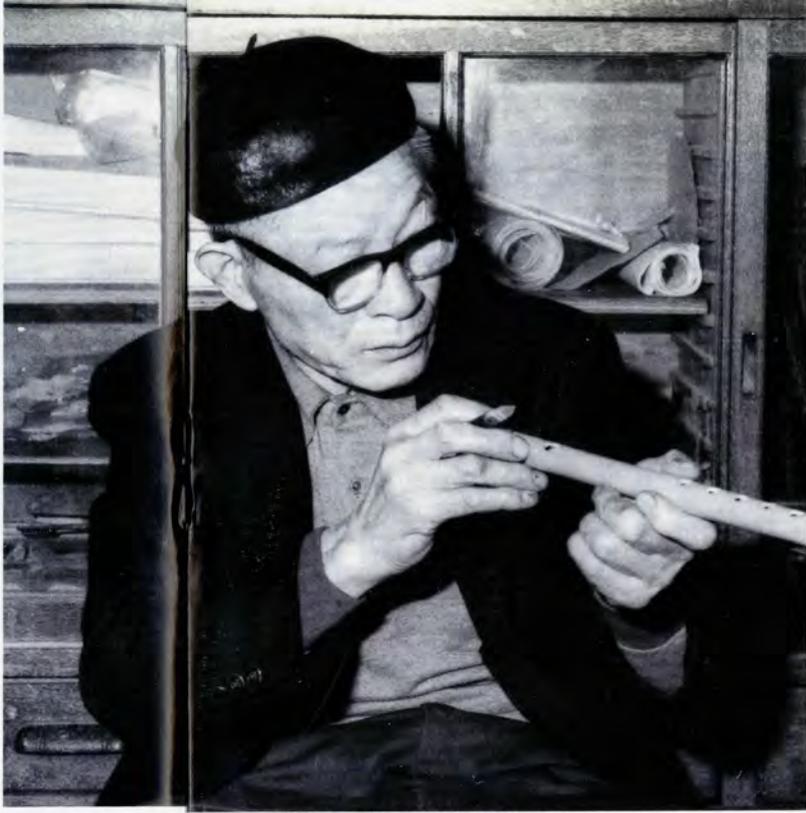


福岡町

「なんのせ、笛作る職人言うたら全国でも少ないさかい、祭りの時期になったら大変やちゃ。」ズラリと笛の並んだ仕事場で話して下さったのは窪谷新顕さん。窪谷家は祖父の代からの笛作りの家で、その名は「新月の笛」として、全国的にも有名である。

「笛の種類だけでも四十種類はあるかねえ。そ

日本の伝統芸能を奏でる『新月の笛』



▲「新月の笛」を作る窪谷新顕さん



▲新月の笛

やけど注文した人の希望に合わせて作るから、実際には全く同じ笛ちゃ二本と作れんねえ。窪谷さんの笛の音色に対するこだわりは相当なもので、空気の抜けの悪いものは、完成間近のものでも叩き割ってしまおうとのことである。また、研究のため海外旅行して、世界の珍しい笛を買ってきたりもする。「最近では置き物として笛を買

いたいという人も増えてきたけども、とにかく本人に実物の笛を見せたら、吹いて納得してもらってからでないと売らんが。」という窪谷さん。今一番の悩みは後継者の問題だそうで、「今の若いもんはとにかくお金がもうかる仕事じゃないとやろうとせん。笛作りいうたら、ずっと座りっぱなしやし、そんな簡単にいい笛は作れんし、割のあわん仕事やちゃ。」と、淋しそうに言う。

高岡の御車山祭りや福野の夜高祭りなど、県内の勇装なお祭りを演出する「新月の笛」。窪谷さんにはいつまでも元気で、素晴らしい音色を響かせる新月の笛を作り続けてもらいたいのである。

荘厳に、繊細に… 雅楽の響き

福岡町が「伝統芸能の拠点」と改修工事を進めていた旧家島田邸がこの四月に完成し、改装記念式典で雅楽が演奏された。福岡町の雅楽の歴史は古く、今から約三百年前福岡の浄土真宗長安寺の住職、朝順恵師の提唱に端を発するとされている。

「私達が若い頃は遊びが少なかったもんやから、とにかく親父に言われるまま雅楽を習ったもんです。でも今の若い人に雅楽言うても、ピ



▲「万歳楽」を舞う岡田さん

「最初はとにかく失敗の連続でした。台風でほとんどの瓜がダメになったり、寒さでやられたりしたこともありました。」と話すのは、いそじ会のリーダー浜木さん。原料となる瓜の植栽からはじまり、今の味に落ち着くまでかなり試行錯誤をくり返したという。「最初はしょうゆ漬けにしたり、ザイサイみたいになりました。でも結局、粕漬けが一番おいしいと皆さん言われるので、この味になりました。今では、その酒かす特有の風味と、柔らかくてなおかつコリコリとした歯ごたえのあるはやと瓜との取り合わせが老人にも好まれ、評判は上々。去年は八百五十キロ生産したが、今年は一トンの生産を目標にしているようだ。

一方「美野里グループ」の「源多良漬」は、白瓜の粕漬けとしょうゆ漬け。こちらの方も評判は上々で、去年は何と三トン余りを生産したそうである。どちらも農協の共同購入商品にのせてもらった二年前あたりから注

文が急増。今では一般には町のイベントや朝市でしか手に入らない。とにかく生産が追いつかない状態だと言う。「農業もあつし、子育てもあつし。なかなか漬け物

ばつかりに「入り浸る」訳にはいかない。にちやいかんちゃ。」とにこやかに話すのは、美野里グループの前田さん。この底抜けに明るい皆さんのウーマンパワーで、漬け物が福岡町を代表する特産物となる日も近い。

福岡町の概要

人口 12,530人(4月1日現在、県人口統計調査より)
面積 58.62km²

福岡町は、小矢部川流域で栽培された菅で作る菅笠で有名で、その全国シェアは90%を誇ります。また豊富な湧水を利用した鯉の養殖も盛んに行われています。奇祭「つくりもん祭り」には、県内外から大勢の人が訪れます。

「洋遊会」の代表、岡田尚志さん。会員の多くは、父や祖父の代からという人で、一時期はメンバーの高齢化が進み、会員数も減少の一途をたどっていた。こうした中、平成元年に町の芸術文化協会と教育委員会の呼びかけに応じ、福岡中学校のプラスチックバンド部のOB十名が新たに洋遊会に加入した。吹奏楽経験者ばかりだったから、みんな笙とか箏の難しい楽器



▲島田邸で演奏する「洋遊会」の皆さん

器もすぐ吹けるようになってね。」

洋遊会では、雅楽だけでなく、これに踊りを取り入れた「舞楽」を継承しているのが特徴。かつて昭和10年の県庁舎の落成式で披露された舞楽「万歳楽」が昨年の高岡の万葉まつりにお

材料にもこだわった 手作り漬け物

福岡町では、平成元年に「ヨイトファーム」という商標を作り、町の特産物作りに力を注いでいる。そんな中、「はやと瓜の漬物を作っている「いそじ会」の皆さん、そして「源多良漬」を作っている「美野里グループ」の皆さんに話を伺った。



▲いそじ会と美野里グループの皆さん

「最初はとにかく失敗の連続でした。台風でほとんどの瓜がダメになったり、寒さでやられたりしたこともありました。」と話すのは、いそじ会のリーダー浜木さん。原料となる瓜の植栽からはじまり、今の味に落ち着くまでかなり試行錯誤をくり返したという。「最初はしょうゆ漬けにしたり、ザイサイみたいになりました。でも結局、粕漬けが一番おいしいと皆さん言われるので、この味になりました。今では、その酒かす特有の風味と、柔らかくてなおかつコリコリとした歯ごたえのあるはやと瓜との取り合わせが老人にも好まれ、評判は上々。去年は八百五十キロ生産したが、今年は一トンの生産を目標にしているようだ。

一方「美野里グループ」の「源多良漬」は、白瓜の粕漬けとしょうゆ漬け。こちらの方も評判は上々で、去年は何と三トン余りを生産したそうである。どちらも農協の共同購入商品にのせてもらった二年前あたりから注

文が急増。今では一般には町のイベントや朝市でしか手に入らない。とにかく生産が追いつかない状態だと言う。「農業もあつし、子育てもあつし。なかなか漬け物

ばつかりに「入り浸る」訳にはいかない。にちやいかんちゃ。」とにこやかに話すのは、美野里グループの前田さん。この底抜けに明るい皆さんのウーマンパワーで、漬け物が福岡町を代表する特産物となる日も近い。

6月は「土砂災害防止月間」です。

みんなので防ぼう、土砂災害!!

土砂災害は、一瞬のうちに尊い人命を奪い、耕地を埋め、家屋や道路・鉄道を破壊する恐ろしい災害です。



万一に備えての心構え

①危険度の確認

「土砂災害危険箇所マップ」を参考に自分の家のまわりなどをよく調べ、危険箇所がないか確認しておきましょう。

③避難場所の確保

家族で話し合い、ふだんから避難経路や避難場所を決めておきましょう。

④緊急避難の訓練

土石流は、流下速度が速いため、流れと直角の方向に逃げるのが鉄則です。とっさの時の判断を誤らないために、定期的に訓練を行いましょ。

②大雨の時は要注意

大雨、長雨や地震の時は危険です。ふだんから気象情報に注意しましょう。



土砂災害防止に関する作品募集

対象 / 小・中学生
区分 / 絵画 四ツ切
ポスター 四ツ切

募集期限 / 9月30日(月)
作品送付先・問合せ先 / 〒930

富山市新総曲輪1-7 県庁砂防課
☎0764・31・4111

不正大麻・けし撲滅運動の実施について

不正栽培及び自生の大麻やけしを撲滅するため、今年も全国的に、不正大麻・けし撲滅運動が実施されます。富山県では、7月14日までこの運動を実施しますのでご協力ください。

【大麻】

一般に「アサ」と呼ばれ、種子は鳥の飼料として、また、茎皮は麻糸として使用されています。

しかし、幻覚を引き起こす物質が含まれているため、栽培するには許可を受けなければなりません。

【けし】

けしは「ひなげし」や「おにげし」のように植えてよいものと、あへんを含んでいるため、一般家庭での栽培が禁止されているものがあります。

例年、植えてはいけないけしを間違えて観賞用に栽培している例が見受けられますので十分注意してください。

なお、不正栽培や自生している大麻やけしを発見したときは直ちに最寄りの保健所または警察へ連絡してください。



過激派についての情報をお寄せ下さい

過激派は、背広姿でサラリーマンを装うなど市民の皆さんから不審がられないように、用心して生活しています。しかし、よく見ると生活態度がどこか違います。

あなたの回りに、こんな人はいませんか。

- 単身のはずが、数人の者が出入りしている。また、夫婦と言っているが様子が不自然である。
 - 昼間でも、カーテンを締め切り、外から見えないうようにしている。
 - 留守のはずなのに、誰かいる気配がある。
 - 洗濯物、布団等を干さない。
 - 部屋への出入りの際、周囲を極端に警戒する。
 - 部屋の中から金属音や火薬の匂いがする。
 - 物音を消すために、ステレオ等のボリュームを異常に大きくしている。
- 怪しいノおかしいノピンときたら
110番 ◎



密航者の発見にご協力を!

『スパイ』『偽装難民』が富山湾を狙っている!



次のような「おかしいな」と思われることがありましたら「110番」通報か最寄りの警察署へ連絡をお願いします。

あやしい船

- 無灯火で沖合に停泊している船
- 灯火を点滅し、合図している船
- 嵐の中を航行している船
- 海岸に打ち上げられたボートや船

あやしい人

- 海岸で懐中電灯を点滅し、合図している人
- 松林や無人駅にかくれている人
- 夜釣りに似合わない服装の人
- 沿岸の民宿などに飛び込み宿泊する人

統計調査にご協力を



平成3年事業所統計調査、商業統計調査が7月1日現在で、全国一斉に行われます。事業所統計調査は、事業所をもれなく調査して、わが国の産業構造や、事業活動の実態を明らかにするために、商業統計調査は商店の販売活動の実態や分布状況などを明らかにすることを目的としています。

調査対象

事業所統計調査：農林漁家を除くすべての事業所(ただし今回は卸売・小売業除く) 商業統計調査：卸売・小売業

6月下旬に、調査員が調査票の記入のお願いに、各事業所、商店を訪問いたしますので、ご協力ください。

「とやまトレードフェア'91」の開催

入場無料



本フェアは、毎年6月28日の貿易記念日にあわせて開催しているもので、本年度で第8回目を迎えます。

内容は、世界各国の食料品、衣料品、貴金属、雑貨といった各種輸入品の展示即売をはじめ、音楽、文化の紹介等を行います。

世界の文化を知る絶好の機会ですので、是非一度会場へ足をお運びください。

●期間
平成3年6月20日(木)から23日(日)
午前10時～午後5時

●会場
富山産業展示館(テクノホール)
富山市友杉(0764・95・3111)

▼第二会場の富山市体育文化センターでは、友好関係を結んでいる各国の県、州を紹介しています。

問合せ 県庁観光通商課
☎0764・31・4111
(内線518)

まちづくりシンポジウムにとやま

■日時
平成3年6月15日(土)
午後1時から4時まで

■場所
県庁4階大ホール

■内容
落語家立川志の輔氏司会による
パネルディスカッション



■テーマ 「住民参加のまちづくり」

※問合せ 県庁都市計画課
☎0764・31・4111 内線658

参加無料

富山・名古屋航空便の就航

富山と名古屋を55分で結ぶ航空路が、開設されました。



この路線は56人乗りの最新鋭航空機により、富山―名古屋間を朝夕の2往復運航するもので、これにより、名古屋への日帰りビジネスや名古屋空港経由での海外旅行がたいへん便利になりました。

標準ダイヤは、富山空港発が9時55分と17時25分、名古屋空港発が8時30分と16時00分となっており、大人片道一三、〇〇〇円、小人片道六、五〇〇円です。

もてなしの県民運動

「もてなしの心」啓発標語募集

県では、来年7月から開催の第一回ジャパンエキスポ富山に向けて、県内を訪れる観光客を温かく迎える運動を進めるため「もてなし県民運動」を実施します。

この運動は、県民一人一人が訪れた観光客に対し「ありがとう」の気持ちをもって接し、それが富山県の顔であることを認識していただくという運動です。

この運動の推進にあたり、県民のみならず啓発の標語を募集します。たくさんの方の応募をお待ちしております。

●応募要領

- ・応募資格は県内在住者とし、
- ・応募作品は郵便ハガキに、標語、住所、氏名、年令、職業、電話番号を記入してください。
- ・応募作品は一人何点でもかまいませんが、ハガキ一枚につき一点とします。

●締め切り
平成3年7月20日(当日消印有効)

●送り先
〒930 富山市新総曲輪1-7
富山県観光通商課「もてなし県民運動」標語募集係
(☎0764・31・4111 内線517)

●審査及び表彰
厳正な審査の上、最優秀作品1点(賞金5万円・副賞)、優秀作品3点(賞金2万円・副賞)、佳作10点(賞金1万円・副賞)を表彰します。

●入選作品の活用
入選作品はポスターやステッカーに掲載し、「もてなし県民運動」の推進に活用します。

ヤングフォーラム イン・とやま 開催

●日時
平成3年6月29日(土)10時より

●場所
富山県教育文化会館ホール

●日程
午前 基調講演
午後 フォーラム(立川志の輔出演)

●内容
若者自身の手による魅力ある郷土づくりの方法を探るため青少年等の参加によるフォーラムを開催します。

※詳しくは県庁婦人青少年課または教育委員会生涯学習室まで
☎0764・31・4111
(内線763または284)

思春期の体や心の悩みにお答えしています。保護者の方の相談にも応じていますので、お気軽にご相談下さい。医師や保健婦が専用電話で応じ、秘密は守られます。

●相談日
毎週月～金(ただし、年末年始祝祭日は除く)
午前9時～午後5時

●電話番号
富山保健所 0764・22・8866
高岡保健所 0766・26・8866

“思春期 テレフォン相談”の お知らせ

平成3年4月11日～5月10日

4月14日 「いきいきとやま観光キャンペーン'91」
「TAP 90'S北陸観光キャンペーン」
オープニングセレモニー
4月15日 富山県婦人週間のつどい



4月17日 特別養護老人ホームやなせ苑竣工式
4月19日 鯉のぼり掲揚
JET'92テーマソング贈呈式



4月20日 TAPエクスプレス歓迎セレモニー
4月23日 富山・名古屋便就航記念式典
総合運動公園陸上競技場起工式
第1回ジャパンエキスポ富山'92総合起工式



4月24日 富山県科学技術会議
県政モニター委嘱状交付式



4月25日 立山黒部アルペンルート開通雪の祭典
4月26日 知事のまちなまり(福光町)
5月2日 春の叙勲伝達式
財富山観光物産センター設立発起人会
5月9日 「とやま賞」贈呈式



平成3年度 とやま賞贈呈

富山県住みよい家づくり資金融資申込案内

県では、県内に自ら居住するために、住宅を新築・購入、又は改良される方に対し、低利で資金を融資します。

なお、今年度から「長寿社会対応住宅」を融資対象住宅に加え、この住宅を取得される場合は、更に低利で資金を融資します。

(1) 融資限度額及び償還期間
新築・購入 三百二十万円(20年)
改良・中古 二百万円(10年)
ただし、公庫資金の1/2以内に限る。

(2) 融資金率
一般 6.0パーセント

老人同居住宅、心身障害者同居住宅等一般住宅に適用。

〈特別〉5.0パーセント
長寿社会対応住宅、耐雪住宅、融雪住宅、自然落雪住宅に適用。
※申込は、各金融機関で受け付けています。

※その他、詳細についてのお問い合わせは左記まで
富山県住宅供給公社
〒0764-3251 31代
富山県庁建設住宅課
〒0764-3141 11(内線665)

平成3年7月街頭献血日程

日 曜	場 所	時 間
7 日	小杉町「パスコ」ショッピングセンター前	10:00～15:30
8 月	朝日町職工会館前	10:00～15:30
13 土	魚津市「サンプラザ」ショッピングセンター前	10:00～15:30
15 月	福光町役場前	10:00～15:30
18 木	上平村役場前	9:30～16:00
19 金	小矢部市役所前	10:00～15:30
20 土	富山西武前	10:00～16:00
21 日	富山西武前	10:00～16:00
22 月	八尾町役場前	10:00～15:30
27 土	J R 富山駅前	10:00～16:00
29 月	福野町役場前	10:00～15:30

※富山県赤十字血液センター(富山市牛島本町)では、毎土曜日の午後も開所し(祝祭日除)、献血を受け付けています。



企画展「原始・古代人の生活をさぐる」

富山県の旧石器時代から平安時代までの各遺跡から発掘された土器や石器を中心に展示します。

期 間 6月11日(火)～10月19日(土)
休 館 日 第2・4土曜日、日曜日、国民の祝日
入 場 料 無料
問 合 せ 富山県埋蔵文化財センター
〒0764-3428 14

特別地方消費税の免税点改正のお知らせ

飲食店、料理店等で飲食をしたり、旅館、ホテル等で宿泊や飲食等をしたときにかかる特別地方消費税は、利用料金が一定の金額以下の場合には、かからないこととなっています。この限度となる金額を免税点といいます。

この免税点が平成3年7月1日から次のとおり変わります。

▼詳しくは、最寄りの県税事務所までお問い合わせ下さい。

区 分	免 税 点	
	現 行	改 正 後
宿 泊 等	1人1泊につき 10,000円	1人1泊につき 15,000円
飲 食 等	1人1回につき 5,000円	1人1回につき 7,500円
出前・仕出し	1人分につき 5,000円	1人分につき 7,500円

浄化槽の法定検査について

浄化槽の所有者は、浄化槽法により保守点検や清掃に加えて、浄化槽が正常に維持されているかどうかについて、知事の指定した機関による法定検査を受けることが義務付けられています。

本県では、(社)富山県浄化槽協会がその「指定検査機関」として指定を受け、法定検査を行っておりますが、本年4月からこの手数料が次表のように改定されました。

皆様方には、法定検査の趣旨をご理解され、受検されるようご案内いたします。

※なお、法定検査についてのお問い合わせは、次の機関までお願いします。
(社)富山浄化槽協会 〒0764-21208
富山県環境整備課 〒0764-3141 11

●検査手数料

(1) 使用開始後6～8月後に1回検査する場合の手数料

浄化槽の区分	浄化槽の処理対象人員	10人以下	11人以上 20人以下	21人以上 100人以下	101人以上 300人以下	301人以上 500人以下	501人以上 2000人以下	2001人以上
単 独 処 理		9,300円	10,000円	11,000円	13,000円	15,000円	17,000円	20,000円
合 併 処 理		10,000円	11,000円	12,000円	15,000円	17,000円	20,000円	24,000円

(2) (1)の検査後 毎年1回検査する場合の手数料

浄化槽の区分	浄化槽の処理対象人員	10人以下	11人以上 20人以下	21人以上 100人以下	101人以上 300人以下	301人以上 500人以下	501人以上 2000人以下	2001人以上
単 独 処 理		5,300円	6,000円	7,000円	9,000円	11,000円	13,000円	16,000円
合 併 処 理		6,000円	7,000円	8,000円	11,000円	13,000円	16,000円	20,000円

県職員・警察官採用試験について

試験名	受付期間	第一次試験日	試験会場
上 級	5月27日～6月15日	7月14日(日)	富山商業高校
中級・初級	8月16日～9月5日	10月6日(日)	富山高校
警察官 A	6月14日～7月4日	7月28日(日)	富山中部高校
警察官 B	8月30日～9月19日	10月20日(日)	富山東高校
婦人警察官			

※受験資格、採用予定職種及び採用予定者数など詳しいことについては、県人事委員会へお問い合わせ下さい。(〒0764-4161 6166 内線3008)

表2 エッセイ／青柳志郎
P1 ひと／佐竹 清
P2 クローズアップ
①TAPエクスプレス観迎セレモニー
②富山一名古屋便運行開始
③知事のまちまわり・福光町
④TOYAMAチューリップアペニュー91

P12 特集／環日本海交流を考える
P14 撮影／赤羽仁論
P16 県庁探訪／商工企画課
P18 ふるさとみとある記／福岡町
県からのお知らせ

●表紙撮影／滝川邦彦(日本写真家協会)
今年から五月十二日は「看護の日」となりました。そこで日夜頑張っている中央病院の看護婦さんをクローズアップ。白衣の天使として、思いやりと奉仕の精神で患者さんに接する関口宏子さん。その姿はまさに現代のフローレンス・ナイチンゲール。心暖まる一時でした。



交通事故については
富山県交通事故相談所東別館1階
☎(0764) 31-4111内759

相談110番
家庭問題・悪質商法・寛せい刑など、どんな相談にも応じます。
☎(0764) 42-0110

シルバー110番
高齢者や家族の心配ごと、悩みごとに富山県高齢者総合相談センター
富山市舟橋南町5-14
社会福祉会館内
☎(0764) 41-4110

消費生活については
消費生活センター
富山市安住町7-18
安住町第一生命ビル内
(一般相談は)
☎(0764) 32-9233
(金融相談は)
☎(0764) 33-3252

消費生活センター高岡支所
高岡市本丸町7-1
本丸会館内
☎(0766) 25-2777

県政については
県民相談室 富山市新総曲輪1-7(県庁内)
☎(0764) 31-4111代
31-3131(県民相談電話)

高岡地方県民相談室 高岡市赤祖父211(総合庁舎内)
☎(0766) 21-9411代

魚津地方県民相談室 魚津市新宿10-7(総合庁舎内)
☎(0765) 24-5311代

砺波地方県民相談室 砺波市幸町1-7(総合庁舎内)
☎(0763) 33-5151代

物価ダイヤル
物価に関する苦情や相談があればお気軽にお電話ください。
☎(0120) 16-7400 (県庁県民生活課内)

県からのホットニュース 見て、聞いて、ご意見をお寄せください。

TV

テレビ広報

- チューリップテレビ 毎週土曜日AM9:30~9:45 「志の輔・陽子のふるさとトーク」
- ◎北日本放送 毎週日曜日AM11:00~11:30 「こんにちは富山県です」※翌日同時間再放送
 - 6/2 みんなで街づくり
 - 6/9 現地に見る土砂災害
 - 6/16 富山・札幌便就航
 - 6/23 富山と北海道のつながり
 - 6/30 とやまの渾
- 富山テレビ 毎週日曜日 AM9:00~9:30 「112万人のひろば〜クイズ/フォーカス・イン」

RADIO

ラジオ広報

- FMとやま 「ふれあいホットライン」
県内各地からホットな話題をクリアなサウンドでおとどけます。
毎週月~金曜日 AM9:30~9:35

NEWS PAPER

新聞広報

- 北日本、富山、読売、北陸中日、朝日、毎日
毎月第2、最終土曜日
「県からのお知らせ」

編集後記

◆取材でお会いした笛作りの職人窪谷さん。最初は、「いかにも職人」という感じで、下手な質問をすれば、かられたりするのは、と緊張していました。でも、お話を伺っていくうちに、とても愉快な方であることが判明。そのうちに、旅行で買ったきたという妙な形の笛を「ブオーツ」と吹いたり、鼻で笛を吹いたりというニク・パフォーマンス。

取材であんなに大笑いさせてもらうとは、これだから広報誌担当はやめられません。(T)

◆初めまして！このたび、県広報とやまの一コーナを担当することになりました。初めての取材は、わけのわからぬうちに終わってしまったという感じです。また、写真の出来が悪く、撮り直しに行ったりと失敗の連続でした。早く取材のノウハウをつかみ、面白いものを皆さんにお見せたいと思います。(A)

◆中央病院へ表紙を撮りに行った時、モデルになってもらった関口宏子さんから「先生」と言われてビックリ。一瞬とまどっていると「今年の二月に先生の講義を受けましたよ。すっかり忘れていたが確かに看護婦さんの広報研修で教壇に立ったのを思い出した。昔から女性に顔を覚えてもらった例しかなかっただけに、嬉しくて、大変気持ちよく一日を過ごすことができました!?(M)



街づくりの視点

柳堂(大手モール)

「街づくり」という言葉を耳にする機会が多くなった。これまでは「都市計画」というニュアンスで、経済活動を優先した機能重視の施策が行われてきたのだが、近頃は「景観」という視点からの「潤い」を創造することにその目的が変わってきている。富山県でも、庁舎建築や公共施設建築、道



路整備をもってその先導的役割を担おうとする優れた試みが進められている。

富山市大手町にある「富山市民プラザ」とその前面道路空間である「大手モール」は、その「街づくり」という試みの中で、富山という関数を計算しながらも、かなり挑発的な都市空間を提案している。それだけに、この施設群が公開された当初は、建築物やモール空間を使いこなせないことから起る問題が山積した。このとき、ほとんどの問題は作り手側の問題ではなく、施設と使い手側の一部の人々との間に文化的な水準の誤差があつて起きた問題であったことは、時間の経過とともに多くの市民に親しまれ、カルチャーショック的な抵抗が薄らいできたことから明らかである。

この「大手モール」、ここは新聞社や銀行、商店などの既存建築物が建ち並んでいるのだが、ここで「街づくり」というしなを計画した建築家を唸らせる見事な「翻訳」をやつてのけた家具店(柳堂)がある。

現代建築というコードで設計され、その関係においてつくられたモール空間、その実験劇場、とても呼びたいような空間域に位置することを考えれば、同じコードで計画することが模範解答であろうが、柳堂はその正反対の手法を使うことで、建築家の提案に応えたのである。

家具店としての生き残りを賭けた店舗計画では、昭和28年に建築した店舗を取り壊して新築を考えたのは当然のことであった。しかし、限られた敷地で高層化プランを練り直す末に、ふと、玄閣上にある創業以来の看板をどう残そうかという思いが店主の脳裏をかすめた。そのとき、現店舗の建築的価値に気づいて改装を薦めてくれた人がいたことも幸いして、計画は次第に店舗を生かしながら、大手モールの中でどう調和するか、どう「街づくり」に参加するかという視点に変わっていった。その結果が、現店舗「柳堂」である。「街づくり」というしなかけがえがなかった見事な形である。形は思い、その形に力あり。柳堂に続く「街づくり」に期待したい。

◎

写真／風間耕司(日本写真家協会会員)
文／岡田順一(富山エディターサロン会員)

富山ー札幌便

6月1日開設



本県と北海道を空で結ぶ富山ー札幌便が6月1日(土)に開設されます。所要時間は80分で、羽田空港や小松空港で乗り継いでいたのに比べ大幅に短縮され、北海道がより身近なものとなります。

これにより、富山空港は富山ー東京便(1日6往復)、富山ー名古屋便(1日2往復)と合わせて3路線9往復が就航することになります。

●運航開始日 6月1日(土) ●運航便数 1日1便

●ダイヤ(予定) 富山発 13:40 札幌着 15:00
札幌発 15:40 富山着 17:05

●運賃(ジェット料金含む) 片道 24,700円
往復 44,640円

●就航機 ボーイング767-200型機(234席)



FIRST JAPAN EXPOSITION IN TOYAMA '92 第1回ジャパンエキスポ富山'92

会期/平成4年7月10日金ー9月27日(日)80日間 会場/県民公園太閤山ランド